

Title	第四十八巻自第七号至第十二号総目次：昭和三十年下半期
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1955
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.48, No.12 (1955. 12) ,p.1- 4
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19551201-0059

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

三田學會雜誌 第四十八卷 自第七號 至第十二號 總目次 (昭和三十年下半年期)

論 說

地主制再編成の一形態……………	小池基之	七號	一頁	四週
——とくに農地移動について——				九頁
投入産出分析(一)……………	福岡正夫	七	三四	五三二
——逐次解法その他——				
理論經濟學の性格と日本經濟……………	鈴木諒一	八	一	五七五
投入産出分析(二)……………	福岡正夫	八	一三	五八七
——勸學的レオンテイエフ體系——				
厚生經濟學と倫理的價值判斷……………	富田重夫	八	二二	五九六
ベヴァン主義とイギリス労働黨……………	飯田鼎	八	三八	六一二
——労働黨左派の發展過程とその意義——				
アルフレッド・マーションルにおける交通論……………	増井健一	九	一	六五一
社會保險の現状とその改正計畫……………	園乾治	十	一	七三九
「同一労働同一賃金」の原則と婦人労働問題……………	黒川俊雄	十	三四	七七二
人口政策の概念を規定する……………	寺尾琢磨	十一	一	八三三
生産性の變化と所得分布……………	鈴木諒一	十一	一五	八四七
——アグレゲーション解決のために——				

古典學派における「賃労働」問題の分析視角	井村喜代子	十一	二九	八六一
——アダム・スミス——				
西獨鐵鋼業の復興過程	山本 登	十二	一	九〇五
社會政策と労働の人的構造	中鉢正美	十二	一五	九一九
——いわゆる「賃労働の理論」によせて——				

資 料

ソ連の農業問題	氣賀健三	九	二五	六七五
現代ドイツ社會學の思考状況に關するノート	石坂 巖	九	三六	六八六
——その人間中心主義的志向をめぐつて——				
宗門改帳より壬申戸籍へ(一)	速水 融	九	四七	六九七
——維新期の人口調査とその一例——				
農地改革後における山林地主の一存在形態	平野 絢子	九	五六	七〇六
——割山慣行の實態とその本質——				
西ドイツ中世における“Bauerntum”の形成	宇尾野 久	十	四七	七八五
——Codex Laureshanensisを中心として——				
保險商品説の研究	庭田 範秋	十	六三	八〇一
モンゴル遊牧民の男女分業	後藤 富男	十二	三〇	九三四
——その社會的な地位との關係——				

書評及び紹介

篠原三代平著『所得分配と賃銀構造』	鈴木 諒一	七	四五	五四三
白杉三郎著『保險學總論』	庭田 範秋	七	四七	五四五
古川榮一編『財務管理』	關 口 操	七	五一	五四九

俗正夫著『農業經濟學原理』	常盤 政治	七	五四	五五二
鹽田庄兵衛編『幸徳秋水の日記と書簡』	飯 田 鼎	七	五七	五五五
N・H・エンゲル著『配給における費用と利潤』	片岡 一郎	七	六一	五五九
ウィリアム・S・サクス著『獨立戦争前の北部植民地農業の状態』	中村 勝己	七	七一	五六九
W・L・スミス著『爲替相場の調整と生活水準』	白石 孝	八	五〇	六二四
印南博吉著『生命保險論』	庭田 範秋	八	五二	六二六
D・デュラン著『多元回歸係數に對する同時信賴領域』	佐藤 保	八	五六	六三〇
バーゲス・カメロン著『生産の決定』	尾崎 巖	八	五九	六三三
L・M・コイク著『ラグの分布と投資行爲』	鈴木 諒一	八	六四	六三八
E・V・ホフステン著『品質變化と物價指數』	鈴木 諒一	八	六八	六四二
クズネッツ著『高所得者における所得と貯蓄の割合』	鈴木 諒一	九	六九	七一七
M・フリードマン著『實證經濟學の方法論』	富田 重夫	九	七三	七二三
ユルゲン・クチンスキー著 高橋正雄・中内通明譯『ドイツ經濟史』	飯 田 鼎	九	七六	七二六
スコット・A・グリーア著『社會組織』	關 口 操	九	七九	七二九
栗原百壽著『農業問題入門』	平野 絢子	九	八二	七三二
勝部元著『現代のファンズム』	飯 田 鼎	十	七七	八一五
W・C・ベホーテガイ『自動車タイヤ業界における再販賣價格維持制度』	片岡 一郎	十	八一	八一九
ポール『社會主義社會の國民所得』	加藤 寛	十	八五	八二三
社會政策學會編『賃労働における封建性』	北原 勇	十	八八	八二六
勝呂弘著・改訂新版『海上保險』	園 乾治	十一	四六	八七八
ロビンソン・ギルマン・ドゥニの労働價值説に關する討論	遊部 久藏	十一	四七	八七九
宮下忠雄著『中日貿易の研究』	白石 孝	十一	五六	八八八
高橋長太郎著『所得分布の變動様式』	鈴木 諒一	十一	五九	八九一

Studies in Income and Wealth, Vol. 15, National Bureau of Economic Research	鈴木 諒 一	十一	六一	八九三
ハリス編『社會科學者シユムペーター』	山 部 德 雄	十一	六四	八九六
久武雅夫著『數理經濟學原理』	鈴 木 諒 一	十二	四七	九五一
F. P. 貝レンス著『近代經濟學の生誕』	中 鉢 正 美	十二	四九	九五三
——ゴッセンへの批判——				
エルスナー著『經濟恐慌』	常 盤 政 治	十二	五二	九五六
千葉秀雄譯『ドイツ經營學』	小 島 三 郎	十二	五五	九五九
——ドイツ的經營學の生成と發展——				